

つばきの結実促進について

第5報 ヒノキバヤドリギの被害と
ツバキの開花結実との関係

熊本官林局 石崎厚美

此の調査は川内官林署部内荒川国有林内試験地に於て土壤水分高く、陽光等の不足する凹地に於て此のヒノキバヤドリギの寄生が著しく、これが、寄主植物であるツバキの開花結実の関係にも影響するのではないかと考え、その侵入の状態を稍々解剖学的に見、侵入の経過、経路、及び寄主、寄生植物の生長、並にその寄生による寄生植物の被害の関係を調査したものである。

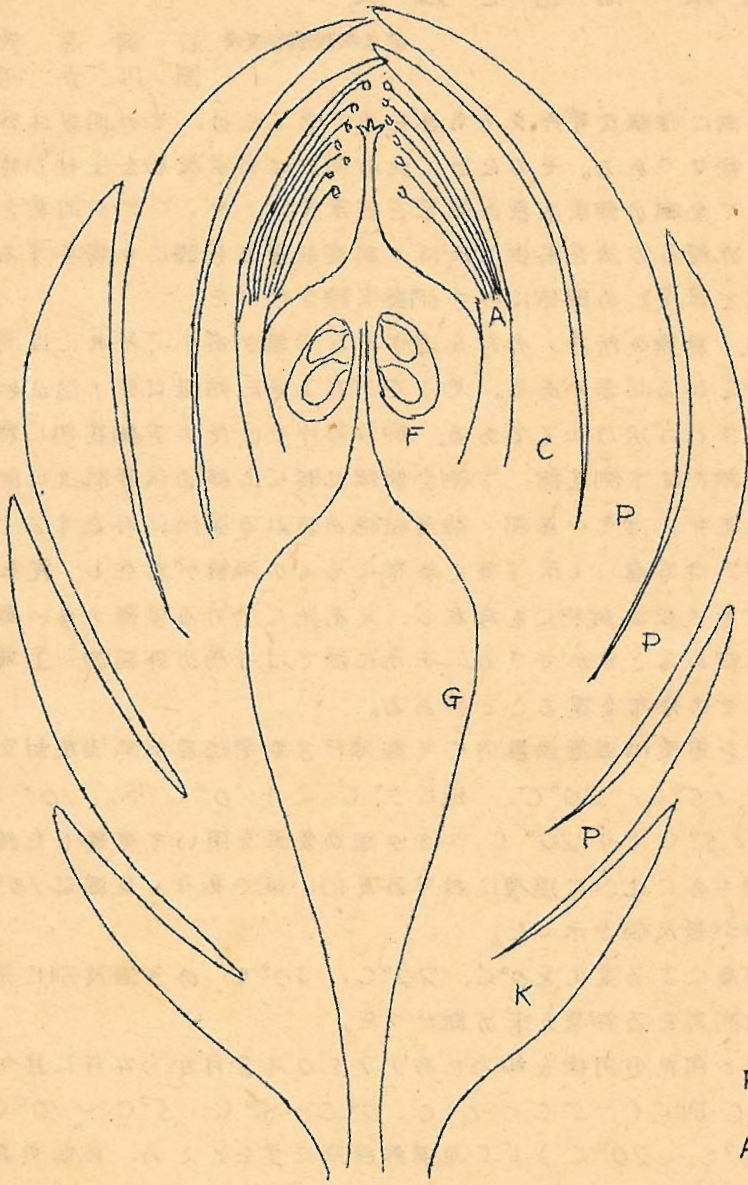
ヒノキバヤドリギの侵入の状態はツバキの場合に於ても江本義敏氏の結果と殆んど変りない。そしてその初期の侵入は落葉痕跡に最も多く、次で落枝痕跡、二岐部、外傷病部、樹幹健全平滑部等であつた。

ヒノキバヤドリギの数及び生育の状態もツバキの生育、開花、結実に影響を及ぼすものと考えその状態を全、 $\frac{2}{3}$ 、 $\frac{1}{2}$ 、 $\frac{1}{3}$ 、 $\frac{1}{4}$ 、 $\frac{1}{5}$ 、0 の七階級に分けて調査の結果、全より $\frac{1}{2}$ 範囲の侵入状態を示すものは著しくツバキの生長を阻害し、少くとも60%以上が枯損に導かれている結果を示し、 $\frac{1}{4}$ 以下の侵入状態を示すものは生育にも殆んど影響を与へず、枯損は全く采をさない。

ヒノキバヤドリギの侵入と環境要素との関係は空中湿度、土壤湿度の高い処のものが最も被害が大きい結果を示した。

以上の結果から結実收量を目的とするツバキの育成林分の取扱及びその立地の選定には常に乾燥状態を最も必要な条件とすることであつて、此のために疎開状態におくこと、林地の手入をし根元に雑草等有機物がたまり土壤水分含量の高くならぬように手入を充分にすること、凹地などは極力避殺をさけることなどを考えて扱うべきである。

图 1



- F..... 子 房
- A..... 雄 蕊
- C..... 花 柱
- P..... 花 被
- K..... 萼 片
- G..... 维 管 束